

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
なかま編集係

〒285-0025  
佐倉市鍋木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ	六十、七十は漬垂れ小僧……………加瀬清子	身辺雑記、形見の着物……………富原敏光
3 ページ	「君が代」の由来……………郡山武志	山 吹……………清澤瞳子

## 遠い夏の日の記憶

岩 淵 幸 雄

夜通し悩まされた腹痛のため、帰ってすぐ医者へ行け、と一人だけ帰宅を許された宿直明けの早朝。歩くのがやっとのよるよる姿を、敵のグラマンに見つかってしまった。

と木が裂けるような腹の底まで響くすさまじい音。なに糞、やられてたまるか。痛む腹と咳き込む胸の喘ぎの中で睨み返したグラマン戦闘機のうしろ姿。

昨夜は幸いに空襲もなく、校舎を守るための宿直も事無きを得たばかり。今朝はこんな早くからグラマンのお出ましで、なんと運の悪いことか。いつもの空騒ぎで、動くものを見つけると、猫だろつが鼠だろつが見境なく狙い定めて機関銃を撃ち捲つて来る手のつけられぬ相手だ。

昭和二十年七月半ば、その頃、青森市内には敵機を迎え撃つ飛行機は勿論、機関銃一丁さえない全くの無防備状態。じつと身を潜めて彼等が通り過ぎるのを待つだけ。ところがこの時は一度では済まなかった。撃ち終わって急上昇し空へ舞い上がって行ったと思つた敵が、その先で反転して、又ねらい撃ちに来るではないか。家の反対側へ移らねばやられる。泥まみれの身体でやつと道端に這い上がり五歩、十歩。あと一步のところ

で撃ち込まれた。足許の道路がズタズタになって土埃りを捲き上げる中、どうにか家のうしろに倒れ込み、思わずふり返って目が合った相手の顔。

操縦席にいたのは、まだ少年と思える程の、私とさほど年齢の違わない童顔ではないか。覚えてる。そのうちきつと俺が、お前を撃ち落としてやるからな。

中学生になれば即大人扱い。入学の日から軍事教練。学生帽は戦闘帽に。ズボンの裾はゲートル巻き。道で教師や上級生に会えば立停まって拳手の敬礼。毎朝の朝礼は先ず行進から始まり、何をするにもラツパが合図。春夏の間、授業の大半が食糧増産。郊外の原野を開墾して畠作り、じゃが芋力ポチャを植え、往復五里の道を鍬と堆肥を背負つての行進。帰路、夕立ちに遭つても雨宿りどころか、町並みへ通りかかれれば歩調とれで整然と隊列を組んでの行進。先頭には必ず軍隊ラツパを交代で吹いている二人の小柄な学生がいた。



(編集委員)

## 六十、七十は

### 湊垂れ小僧

いよんなご縁から、岡山県井原市にお住まいの方から「平櫛田中」のカレンダーと、暖簾を送って頂きました。

カレンダーは、目を隈取る深紅も鮮やかな「鏡獅子」の彫像を表紙に、二箇月ごとに一体の彫刻が載せられていきます。鏡獅子は、尾上菊五郎をモデルとして、二十年の間、何体も試作を繰り返して、昭和三十三年、二祀あまりの大作を完成させたそうです。暖簾は、何処でも目にするような、丈四十センチほどの木の綿の紺地に

いま

やらねば

いつ

できる

わしが

やらねば

たれが

やる

百歳田中書

と、自身の言葉が、自らの筆で白く染め抜かれています。

一読して年齢に驚きました。そして、その百歳にして「今やらねば、何時できる」という「やること」のあることを羨ましいとも思いました。尤も、田中は彫刻家ですから、一般人とは多少の差異はあるとしても…です。

田中の言葉は、まだあるのです。「六十、七十は湊垂れ小僧。男ざかりは百から百から。わしもこれからこれから」というのです。

そして、その言葉を裏付けるかのように、正に百二歳にして、向こう十年分の木材を買い集めたというのです。

一方、八十歳の私は、「死」に備え、身辺の整理をしようとしています。田中に比べて、あまりにも貧弱な思いではないかと考えてしまいました。

(白井 加瀬清子)

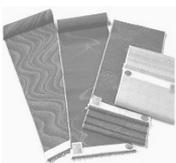
## 身辺雑記、

### 形見の着物

久し振りに父の形見である結城紬に腕を通して店の座売場に立つ。柄行は細い縦縞で所謂大名柄、角帯は銀鼠の綴れ。家内は日頃、この着物は大余所行きですから店に出る時の普段着は、ウール紬にして下さい。と、異論を述べるが今日は父の命日が甚だ近いので静かに見ている。倅が寄つてきて毎年この季節だけ形見の結城で店に立てば俺の代まで着られると嘯く。妻は意外な事を言うのね。と、会心事のように微笑を洩らす。パートの女性は売り台の浴衣帯に叩きを掛けながら聞いている。麗らかな日差しが店のウインドーに当たるので倅が日除けを下げてみると心易い旧家の新渡戸さんが見慣れた赤い車で到着。お婆さんが先導で祝い事があり餅を搗いたんで、ちよつくら持つてきた。と、和やかに挨拶を交わし座

売場の櫃に腰掛け、私らは言葉が乱暴なので驚くでしょう。と、派手に笑いながら孫娘に紺地の浴衣が欲しいと強請られ、母さんの運転で孫も一緒に来たので旦那、柄を見立てて下さい。孫は小学四年だのに私に似て体格が良いから今度から本裁ちに縫いましょう。と、淀みなく語り、孫娘を手招きで呼び直ぐ横の椅子に座らせた。私の薦めた菖蒲の柄を、お婆さん共々、孫に良く映る。と、痛く喜び帯は少し奮発して朱色の筑前博多で決着。お餅の返礼に久留米紺のモンペを差し上げた。

形見の結城紬を店を着熟した父の力を借り、一層難しくなった呉服店の経営を継続する覚悟を倅に伝えようと思うが何故か戸惑い、急に口が重くなり、語らず仕舞いになった。



(中志津 富原敏光)

## 「君が代」の由来

文献により「君が代」の由来について調べてみた。

日本の国歌に準ずるものとされてきた歌。歌は『古今和歌集』の読み人知らずの古歌に始まり『和漢朗詠集』にとられその後筑紫流箏曲や隆達の小唄、琵琶歌「蓬莱山」、浄瑠璃、常磐津、さらには門付唄などにも歌われていた。

明治二年イギリス公使館護衛歩兵軍楽長フエントンが日本の「国歌」について質問した。鹿児島藩砲兵隊長大山巖は薩摩琵琶歌「蓬莱山」から「君が代」を選びフエントンに作曲を依頼した。

明治三年九月東京深川越中島の薩長土肥四藩の操練に臨席した天皇の前で初演されたが不評で海軍軍楽長は「楽譜改訂上申書」を海軍省に提出。

明治十一年宮内省雅楽課は奥好義の曲を採用し多少の訂正を加え林広守選曲として海

軍省に示した。海軍省はこれを海軍御雇教師ドイツ人エツケルトが洋楽風の和声を付し「天皇を讃える儀礼の曲」として演奏した。

明治十五年一月政府は文部省に対し国歌選定を命じたが文部省は慎重な態度をとり中止した。

昭和十二年国定教科書『小学修身』巻四では「君が代」に「国歌」の文字が冠せられた。

昭和五十二年七月二十三日付官報告示『学習指導要領』では「君が代」を「国歌」と明記した。

これに対して日中戦争から太平洋戦争期の暗い体験をもつ人々や団体から反対の声も出され現在に至っている。

国民一人一人が「国歌」の誤解を正し、全国で厳粛な卒業式が整然と行われることを心から願う。

(染井野 郡山武志)

## 山吹

・様々のこと思い出す桜かな  
・散る桜のこる桜も散る桜の季節もすぎ、我が家のさ庭も「梅の木の心しづかに青葉かな」のはずが、元気な雑草たちに振り回されている。

今年も、印旛沼近くの緑の優しい崖に、山吹が咲きはじめた。

数年前の初夏のある日、この山吹が結実しているのを知った。

「七重八重花は咲けども山吹の実のつだになきぞ悲しき」の古歌は、あまりにも有名。早速、植物図鑑を開く。

「黄色の五弁花白もある。花径四厘内外、花型は梅花に酷似、花期五〜六月、一重咲きはよく結実、八重結実なし」

「七重八重」のうたと共に太田持資（剃髪後道灌）の山吹伝説も有名。

上杉定正の重臣の道灌は、鷹狩りの途中雨にあい、近く

の農家で蓑を所望。若い女性が山吹の花の一枝をさし出す古歌を伝えたもので、兼明親王が、小倉にいた折、蓑を借りに来た人へ山吹の一枝を渡した所作が「七重八重花は咲けども山吹の実のつだになきぞ悲しき」。この古歌を山吹の娘が知っていたことに道灌は強く胸を打たれた。

「蓑」と「実」の掛け合わせが即妙。

佐倉の臼井城跡に、太田図書（道灌の弟）の墓がある。臼井城は、一四七九年、道灌と千葉孝胤との戦い。一五

六一年里見氏の重臣との戦い。一五六六年上杉謙信、臼井城攻戦等の記録がある。実戦の少くない中世の城の中での実戦は、臼井城の重要性を知ることが出来る。一六〇四年、

後の城主、酒井家次の転封と共に廃城。現在は一部が公園となっている。

(井野 清澤瞳子)

## 9月の黒板

### なかま編集会議が表彰されました

『なかま』の編集は高齢者短期大学のOB・佐倉市民カレッジ生とそのOBからなる編集委員のみなさんがボランティアで行っています。

来月号で創刊31周年を迎える『なかま』。編集会議のメンバーが代わってもその精神を引き継ぎ、1号も絶やすことなく発行され続けています。

「なかま編集会議」は高齢者の仲間づくりに貢献し、社会教育振興に多大な功績を残していることを評され、8月4日佐倉市民音楽ホールで開催された「平成19年度印旛都市生涯学習振興大会」の席上で表彰されました。表彰名は「印旛都市社会教育委員連絡協議会表彰」です。ただいま表彰状を中央公民館ロビーに展示しているので、是非ご覧下さい。



問い合わせ 佐倉市立中央公民館  
(第2・第4月曜日は休館日です)

電話 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

### わくわく道

狭い庭に木がたてこんでいる。二階から見下ると地面が少なくなってきた。庭師を頼むほど立派な木はないから自分で剪定している。それぞれの木には植えた時のいわくで、所有権ごときものがある。夫の木も伸びたのでさっぱりさせたいが、勝手にはやれない。そこで夫の留守をねらってばっさりと剪つ

てしまう。剪つてしまえばこつちのもの、あとで罵声がとぶが覚悟の上。狭いのは承知なのにあまり剪つては可哀相とか言う。ただ困るのは、家にへばりついていて人なので留守が少ないこと。

木は減らさなければと思っている。自分で剪つていられる間はいいが、息子の代に負担をかけたくない。今春泣く泣くハクモクレンを半分伐つた。ありきたりの木からなくしていく。古い支度です。

### あがとき



加瀬さん、貴女はまだ青春真盛りですね。頑張つてどんどんご投稿ください。

富原さん、ちよつくらに久し振りに出合いました。田舎のお年寄がよく使っています。私には懐かしい響きです。「君が代」の由来、郡山さん随分詳しくお調べになりましたね。来年は北京五輪。メダル獲得の日本選手を称える

「日の丸」と「君が代」に、多くの人たちが感動することでしょう。

清澤さん、「山吹」の解説から、太田道灌、図書、臼井城の合戦と巾広い内容を、限られた紙面にまとめられた構成、文章の運びに敬意を表します。

「黒板」の欄に記載致しましたように、『なかま』にまた一つ勲章が加わりました。これも皆様方の力強いご支援の賜物と感謝致しております。

(安田)